

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 24 年度第 1 回相模原市大規模事業評価委員会		
事務局 (担当課)	企画部 経営監理課		
開催日時	平成 24 年 6 月 18 日 (月) 16 時 00 分～17 時 10 分		
開催場所	相模原市役所本庁舎 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委員	3 人 (別紙のとおり)	
	その他	5 人 (企画部長、幹線道路整備課長 他 3 人)	
	事務局	3 人 (経営監理課長 他 2 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	3 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 議事 (1) 県道 52 号 (相模原町田) 道路改良事業について (2) その他 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

【議事】

(○は委員の発言、●は事務局の発言)

中村会長の進行により議事を行った。

(1) 県道52号(相模原町田)道路改良事業について

◎事業の内容について

事務局及び事業担当課から、事業内容について説明を行い、その後質疑を行った。

- 事業箇所在市道古淵麻溝台と交差する箇所から国道16号までの区間は4車線となっているのか。若しくはそのような予定はあるのか。
 - 現在は歩道付きの2車線であるが、昨年度末に策定した総合都市交通計画において4車線とする位置付けがある。
 - 今回の道路が整備された後、鵜野森周辺の渋滞が心配されるが、渋滞予測などは行っているのか。
 - 鵜野森周辺は現在も渋滞が多いが、国道16号に出て行く道路として、北側に抜ける都市計画道路もあるので、2車線に分散していくのではないかと考えている。
 - 今後、鵜野森交差点まで延伸がされるまでの、渋滞による自転車や歩行者の安全確保策が必要である。
 - 鵜野森交差点まで延伸が予定されているとのことだが、既成市街地を通過する道路を拡幅することが容易でないため、今回の事業区域に含まなかったのか。
 - 事業区域とすると都市計画の網をかけることとなり、地権者等に建築などの制限を課すこととなるので、概ね10年間の中で実施できる範囲とした。
 - 鵜野森交差点までの延伸の計画はあっても、実際には実現が難しいのであれば、今回の道路改良によって発生する渋滞に伴う危険や沿道住民の生活を阻害する要因があれば、これを取り除く対策が必要ではないか。
 - 今回の道路改良事業は、鵜野森交差点までの延伸を想定した中で実施していくものであることから、鵜野森交差点までの延伸は実施していかなければならないと考えている。
- また、この事業区域とした理由は、ここまでを整備すると、鵜野森交差点方面の道路と北側に抜ける都市計画道路の分岐点までを整備することにより、2方向から国道16号に出て行けるため、当面はこれで対応していくとの判断によるもの。
- 原当麻付近では、この道路により学区や商圈などが分断されるなど、地域が分断されてしまうように感じるが、どのような状況なのか。

- 学区については現道で分かれていないと思われるが、今後、環境評価などにより状況を確認しながら、学区の見直しするのかどうか、あるいは地域が分断しない方策を考えていくのかなど、事業を進めていく中で整理していく必要があると考えている。
- 通学路がどこを経由しているのかなど、現状を把握しつつ、現状における課題の対応策についても計画に盛り込んでいくとよい。

商圈については、変化することも考えられるものの、新たな課題が発生しないよう沿道の様子を分析しておく必要がある。
- さがみ縦貫道路の整備前と整備後の交通量の増加はどのように予測しているか。
- 現在、一日あたりの交通量が1万8千台程度だが、今回の事業区間が整備されると3万5千台程度になると見込んでいる。
- 当該事業が完了する前に、さがみ縦貫道路の相模原愛川インターチェンジが開通されることから、さがみ縦貫道路の開通状況と合わせて、時間の経過とともに、事業区域の交通量がどのように変化していくのか、細かく予測を示す必要がある。併せて、事業期間中における課題への対応策も検討する必要がある。
- 事業区間の沿道に大学病院や学校などがあるが、アセスメント調査はどのように行っていく予定なのか。
- 今回の事業規模では、県条例に基づくアセスメント調査の必要はないため、実施は考えていないが、県道507号の西側の区間において県要綱に基づくアセスメント調査を実施していることから、東側についても同様のアセスメント調査を実施して行きたいと考えている。また、西側についても年度更新が必要なものについては、調査を実施していきたい。その中で、大学病院や学校などのアセスメント調査を実施していきたい。
- 近郊緑地特別保全地区を2箇所横断する計画となっているが、住民説明会だけでなく、きめ細かな対応が必要と思うが、どのような対策を行っていくのか。
- 今回の事業は、大きな影響を及ぼすものではないと考えているが、環境には十分配慮しながら進める。緑地保全を所管する課と十分調整しながら進めていきたい。
- 事業概要の目的に地域特性に配慮した歩道の整備とあるがどのようなものか。
- 北里大学病院付近の自転車の交通量が多いため、歩道と自転車道を分けて整備することを考えている。
- 今回の事業による影響として、鵜野森周辺の渋滞がさらに増えていくことが懸念されることから、これらの対応も同時に行う必要がある。
- 事業の効果を見る範囲として、事業区間では渋滞が緩和されるが、その波及として事業区間外で渋滞が増えてしまう場合もある。これらも費用便益分析の費用

として算入するのか。

- 国が示す費用便益分析では、考慮されていない。
- 現在の鵜野森の渋滞は深刻な状況にあるが、今後、さがみ縦貫道路が開通した場合の国道16号の交通量の変化も考えられることから、交差点における交通量のモニタリングをしつつ、交差点改良や交通管理者との協議による信号の調整などを行うことにより、周りへの影響を最小にするための努力が必要である。
- 抜け道となっている道路は通学路となっているケースも多くあるため、幹線道路の整備を推進し、その円滑化を図ることにより、結果的に通学路の環境が向上していくことにつながる。さがみ縦貫道路が開通するタイミングで、相模原の幹線道路ネットワークが円滑に流れるようになることは市民の住環境を守るためにも重要となるため、交通量のモニタリングを実施していく必要がある。
- 地元説明会等を実施とあるが、どのように行っているのか。
- 県道507号から西側については、神奈川県が概略等について地元説明会を実施した経過がある。また、市では自治会長などを構成員とする地域のまちづくり会議において、概略等の説明を行っている。
- 今後は自治会長などの地域の代表者だけでなく、直接影響が出てくる周辺の住民や小学校の保護者会、PTAにも説明していく必要がある。

◎評価の視点等について

事務局から評価の視点等について説明を行い、その後質疑を行った。

- 道路事業の場合には、ネットワークの一部であり、前提となっているさがみ縦貫道路の供用時期もあるので、「事業の妥当性」の「需要予測の手法及び結果」の中に、当該道路が事業完成した後に関連する場所の混雑状況の悪化があるかないかという項目を追加されたい。
- 「事業の妥当性」の中に、他の道路に及ぼす影響などマイナスに作用する部分も明らかにし、その対応策も盛り込むことで事業の妥当性を判断していく必要がある。
- 負のインパクトの対応措置（鵜野森交差点が混雑しないような努力）を費用として盛り込んでおく必要がある。
- 「環境・景観への配慮」の部分については、事業区域内の状況、例えば病院や学校、緑地ごとに調書を細かくするなど、柔軟に対応してもよいのではないか。
- 本委員会では、特に、環境・景観への配慮を重視していくことが必要と感じている。このため、地域住民に対する説明会の開催など、市民の意見を聞く機会を設ける必要がある。
- 本日頂いた意見、後日の意見、欠席されている委員からの意見を今月中までに集約し、これらの意見を踏まえて事業担当課に評価調書を作成していただきたい。

(2) その他

- 次回会議開催は10月頃を予定

以上

大規模事業評価委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	加藤 仁美	東海大学工学部教授	副会長	欠席
2	岸 勲	公認会計士		欠席
3	中村 文彦	横浜国立大学工学研究院教授	会長	出席
4	薬袋 奈美子	日本女子大学家政学部准教授		出席
5	森田 重光	ネイチャーズ株式会社 リサーチセンター長		出席